

心臓血管外科初期臨床研修プログラム(選択外科)

研修責任者 浅野 満

研修期間 必修期間 (4 週または 8 週)、2 年次選択期間 (4 週～)

I. 研修目標

対象となる疾患・病態

- 血管外科：腹部大動脈、腸骨動脈、四肢の動脈、静脈疾患
- 心臓外科：冠動脈疾患、弁膜症疾患、大動脈疾患など人工心肺装置の補助が必要である手術

一般目標 (1) (GIO ;General Instruction Objective)

上記疾患の病整理を理解し、診断し、また周術期管理を把握する。

行動目標 (1) (SB0s ;Structural Behavior Objectives)

臨床研修指導医等とペアで患者を受け持ち、術前評価を行い、手術に参加すると共に、周術期管理を行う。

一般目標 (2) (GIO ;General Instruction Objective)

動脈疾患 (大動脈瘤、慢性閉塞性動脈疾患、急性動脈閉塞など) に対し診断し、治療を理解する。

行動目標 (2) (SB0s ;Structural Behavior Objectives)

外来での診察、検査の組み立て、手術適応の判断を含む系統だった治療計画の作成、手術ならびに術後管理を指導医と共に実践する。

一般目標 (3) (GIO ;General Instruction Objective)

プライマリーケアに必要な外科基本手技を習得する。

行動目標 (3) (SB0s ;Structural Behavior Objectives)

清潔操作の実践、結紮・縫合の基本を習得し、実際の手術で実践する

II. 方略 (研修場所：外来、病棟、手術室)

①開心術、大動脈疾患における診断、手術適応、治療、周術期管理

開心術や大動脈疾患の診断 (画像診断を含)、手術方針、周術期管理を把握する。

集中治療室での人工呼吸器管理、各種モニターの解析と対処などを含めた周術期管理を習得する。

②動脈疾患の診断、手術適応、治療、周術期管理

急性動脈閉塞、慢性閉塞性動脈硬化症、腹部大動脈ならびに腸骨動脈疾患。

③手術手技

手術の助手を行う。

簡単な縫合処置・結紮を実践する。

血管吻合などを実践、もしくは下肢静脈瘤などの手術術者を経験する。(指導医の判断による)

III. その他

動脈ライン確保を行う。

中心静脈カテーテル留置などを行う。

胸水穿刺ドレナージや胸腔ドレーン留置などを実践する。

ベッドサイドで心臓超音波検査や API 計測を行い、病態の評価を行う。

IV. 学会活動

日本外科学会、日本胸部外科学会、日本心臓血管外科学会、日本冠動脈外科学会、日本血管外科学会、日本循環器学会、など、研修期間中に適切な症例があれば症例報告などの発表を行う。

V. 週間予定

病棟回診

平日：7:00 から

土、日、祝日：8:00 から

手術

開心術/非開心術：月曜日、水曜日、木曜日、金曜日

（月、水曜日は朝から、木、金曜日は午後から）

カンファレンス

毎週火曜日 AM 8:00 抄読会

毎週木曜日 AM 8:00 循環器内科－心臓外科症例カンファレンス

VI. 評価

総括的評価として、知識、技能の学習成果をローテーション終了後に指導医とともに行う。

VII. 研修医への提言

心臓血管外科の治療では、周術期の経過が非常に早く、close observation と迅速な判断が重要であり、当科での研修中は出来る限りベットサイドにへばりついていただきたい。心臓外科は精神的、肉体的な負担がかかる診療科の一つだが、その分、患者さんが元気になったときには非常に大きな達成感を得る事が出来る。

また、心臓外科治療はチームで行動するため、コメディカルスタッフを含め、お互いのコミュニケーションが重要である。積極的にチームに参加し、その一員として研鑽を積んでいただきたい。